

# 中学校 美術科



## 1 学習評価で大切にしたいこと

### (1) 「知識」は実感的に理解している状況、「技能」は活動の様子を見取り評価する。

「知識」の評価については、具体的には〔共通事項〕の内容を評価します。文末を「～理解している」として評価規準を作成します。ここでの知識は単に新たな事柄として知ることや言葉を暗記することに終始するものではありません。生徒の造形的な視点を豊かにするために、感情にもたらす効果及び全体のイメージや作風などで捉えるということを踏まえ、実感的に理解している状況を見取り、評価します。「技能」の評価は、具体的には「A表現」(2)の内容を評価します。文末を「～表している」として評価規準を作成します。

### (2) 「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」の双方に重なる資質・能力として評価する。

「思考・判断・表現」の評価は、具体的には「A表現」(1)及び「B鑑賞」の内容を評価します。「A表現」は、文末を「～している」と示すことで評価規準を作成します。「造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考える」ことなどについて留意しながら評価します。「B鑑賞」も文末を「～している」と示すことで評価規準を作成します。「自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考える」ことを留意しながら評価します。

## 2 評価の観点と趣旨

\*第1学年の事例

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容と合わせて、評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象や事象を捉える造形的な視点について理解している。</li> <li>表現方法を創意工夫し、創造的に表している。</li> </ul>	造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術の創造活動の喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の幅広い学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及び趣旨」を参考にして、下の美術科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

中学校美術科の内容のまとまり	感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現	「A表現」(1)ア(2)、〔共通事項〕
	目的や機能などを考えた表現	「A表現」(1)イ(2)、〔共通事項〕
	作品や美術文化などの鑑賞	「B鑑賞」、〔共通事項〕

## 3 各観点における評価規準の作成について

### 知識・技能

「知識」は、表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な視点を豊かにするための知識」として、形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果を理解することや、造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉えることを理解することについて評価します。ここでの「知識」は、表現や鑑賞の場面において学んだ知識を生かして、形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴をなどからイメージを捉えたりできるようになるなど、単に暗記することに終始するような知識ではなく、美術の学習の中で生きて働く知識として実感的に理解した実現状況を評価することが求められます。

「技能」は、造形的な見方・考え方を働かせて、発想や構想をしたことなどを基に表すために、材料、用具などの表現方法をなどを身に付け、感性や造形感覚、美的感覚などを働かせて、表現方法を工夫し創造的に表すなどの技能に関する資質・能力を評価します。「技能」は制作が進む中で徐々に作品に具体的な形となって表れるものです。そのため、制作途中の作品を中心に、完成作品からも再度評価し、生徒の創造的に表す技能の高まりをと見取ることが大切です。

### 思考・判断・表現

「発想や構想」に関する題材の評価規準は、造形的な見方・考え方を働かせて、自己の内面などを見つめて感じ取ったことや考えたことなどを基に主題を生み出し、それらを基に創造的な構成を工夫したり、目的や条件などを基に主題を生み出し、分かりやすさや使いやすさと美しさなどの調和を考え、構想を練ったりするなどの発想や押送に関する資質・能力を評価します。

「鑑賞」に関する題材の評価規準も、造形的な見方・考え方を働かせて、自然や生活の中の造形、美術作品や文化遺産などから、よさや美しさなどを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫、生活や社会の中の美術の働きや美術文化について考えるなどして見方や感じ方を広げたり深めたりする鑑賞に関する資質・能力を評価します。

### 主体的に学習に取り組む態度

「表現活動」においては、机間指導等の際に、能動的に試行錯誤を繰り返し粘り強く取り組んだり、よりよい表現を目指して構想や技能を工夫改善したりしていく様子などの姿を捉えながら指導と評価を行うことが大切です。また、「鑑賞活動」においては、作品などの鑑賞し、造形的な視点を活用しながら造形的なよさや美しさを感じ取ろうとしたり、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えようとするなどの意欲や態度を高めながら評価することが大切です。

各学年の「観点及び趣旨」と関連しながら各題材の「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準と対応させて作成する。

例) 題材において設定した「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力を生徒が学習活動の中で楽しく身に付けようとしていたり、発揮しようとするなどへ向かう態度を評価します。評価規準の文末を「～しようとしている」等で示して評価規準を作成します。

第1学年「花の命を感じて」…「感じ取ったことや考えたことなどを基にした表現」

単元の評価規準例	美術の創造活動の喜びを味わい楽しく花の美しさや生命感などを基に構想を練ったり意図に応じて工夫したり表したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。
----------	--

(※評価の事例については国研資料「『指導と評価の一体化』のための学習評価」中学校 美術 第3編(P.41～)を御参照ください。)